



町に関係する話題など広報係が取材したできごとをご紹介します。

子どもたちの大切な思い出を記録にして贈る

秋津川堤防の復旧工事を請け負う業者が壁画を写真集に

県による秋津川堤防復旧工事を請け負っている秋津川災害復旧・復興協議会（深田真太郎会長…5共同企業体で組織）の3企業体6社が、約1.3キロにわたる秋津川の南側堤防擁壁に描かれた壁画を写真集としてまとめ、4月24日、町内の学校へ贈りました。

壁画は、平成13年度から町PTA連絡協議会が中心となって開催された壁画大会で、主に町内小中学校の子どもたちが卒業記念などで描いたものですが、今回の震災に伴う護岸復旧工事により撤去されることとなっています。



(上) きれいに印刷製本された15冊の写真集が送られました (下) 早速、ページをめくり自分が描いた絵を探す生徒たち

覚えていません。なくなってしまうのは悲しいですが、アルバムを通して大切に覚えておきたい」とお礼の言葉を述べました。

木山中学校（河瀬清彦校長）で行われた贈呈式で深田会長は、「壁画は町のシンボルであると感じ、何とか形として残したいとの思いで作成しました。壁画は、真っ白になりますが、今後また、新たなシンボルになるよう卒業生に描いてほしい」と話しました。

写真集には、作業員が草取りをしながら、光が反射しないよう曇りの日を選んで丁寧に撮影した全508カットの「思い出」が、245ページにわたるぎつりりと詰め込まれています。

生徒を代表して松本莉奈さん（3年）が「壁画を描きたいという小さい頃から願いがかない、うれしかったことを覚えています。

アウトドアのプロが技術と物資で協力

株式会社シェルパと協力協定を締結

町は4月26日、アウトドアと登山専門店の株式会社シェルパと「地域防災力向上活動等及び災害時における物資供給の協力に関する協定」を締結しました。

これは、同社が、自主防災組織等に対する訓練協力や災害発生時の物資供給を行うものです。同社は、熊本地震の際もテントや寝袋などの提供や特殊技能を生かしたブルーシート張りなどの支援を行っています。

阿南大吉社長は「自主防災組織の活動などに協力し災害に強いまちづくりに貢献したい」と力強く話しました。



協定書に署名し、がっちり握手を交わす阿南社長と西村町長

北九州市から町へ竹とんぼ150本の寄贈があり、5月9日に益城幼稚園で贈呈式がありました。この竹とんぼは、北九州市在住の立岩新吉さんが子どもたちに元気になってもらおうと、竹材の切り出しから2か月をかけて完成させたもので、手にした子どもたちは満面の笑みを浮かべていました。

Pickup Plus
今月のプラス+

